

事業セグメント	主な分野と製品	2014年3月期事業の概況
<p>医療事業</p> 	<p>消化器内視鏡分野 内視鏡システム（ビデオスコープ、ビデオプロセッサ、光源装置、液晶モニタ）、内視鏡システム周辺機器（画像記録装置、自動洗浄消毒装置）等</p> <p>外科分野 外科用ビデオ内視鏡システム、内視鏡手術用周辺機器、電気メス 等</p> <p>処置具分野 内視鏡による診断・治療のための各種処置具（生検鉗子、ポリプ切除用高周波スネア、把持鉗子、結石採取・破砕用バスケット、止血関連処置具等、診断用・治療用別に約1,000種類）</p>	<p>消化器内視鏡の分野では、国内外で前期に発売した内視鏡基幹システムが収益に大きく寄与したことに加えて、外科分野でも外科手術用内視鏡システムが売上拡大に寄与しました。売上高は前期比25%増の4,923億円、営業利益は同30%増の1,127億円と大変好調に推移し、いずれも過去最高を更新しました。</p>
<p>科学事業</p> 	<p>ライフサイエンス分野 正立顕微鏡・偏光顕微鏡／倒立顕微鏡／共焦点レーザー顕微鏡／ボックス型蛍光撮像装置／実体顕微鏡／マクロ蛍光顕微鏡／顕微鏡用カメラ／イメージングソフトウエア／バイオイメージングシステム／バーチャルスライド</p> <p>産業分野 デジタルマイクロスコープ／金属顕微鏡／半導体検査顕微鏡／共焦点レーザー顕微鏡／測定顕微鏡／微小三次元測定装置／工業用ビデオスコープ／工業用ファイバースコープ／工業用硬性鏡／超音波探傷器／渦流探傷器／フェースドアレイ探傷器／X線分析装置</p>	<p>ライフサイエンス分野では、レーザー走査型顕微鏡の新製品等が好調だったほか、産業分野でも工業用内視鏡、超音波探傷器等の新製品を投入し、好調に推移しました。これら新製品が収益に寄与し、売上高は前期比15%増の985億円、営業利益は同40%増の49億円となりました。</p>
<p>映像事業</p> 	<p>デジタルカメラ分野 デジタル一眼カメラ／コンパクトデジタルカメラ／デジタルカメラ関連製品／デジタルカメラ向けレンズユニット／光学部品</p> <p>その他分野 ICレコーダー／双眼鏡</p>	<p>当社が注力するミラーレス一眼は、戦略製品「OM-D」シリーズのラインアップ拡大等により、売上高は前期比13%の増収となりました。ミラーレス一眼へのシフトを加速させ、コンパクトカメラの販売台数を絞り込んだことで、映像事業全体の売上高は前期比11%減となりましたが、コスト削減により営業損失は大幅に縮小しました。</p>
<p>その他事業</p>	<p>事業ドメインへの経営資源の集中を進めるべく、2012年9月の情報通信事業の売却に続き、2014年2月にバイオリジクス事業からの撤退を決定しました。コア事業とのシナジーが見込めない多くの子会社・関係会社を売却、清算したことで、その他事業の売上高は前期比37%減の264億円となりました。営業損失は54億円となりましたが、バイオリジクス事業からの撤退により、来期以降はブレークイーブンとなる見通しです。</p>	

沿革

<p>1919年 「株式会社高千穂製作所（顕微鏡の国産化を目的）」として創立</p>	<p>1920年 顕微鏡「旭号」発売</p>	<p>1936年 初のカメラ「セミオリンパス」発売、カメラ事業に参入</p>	<p>1949年 社名を「オリンパス光学工業」と改称 東京証券取引所に株式上場</p>	<p>1950年 世界で初めて実用的な胃カメラを開発</p>	<p>1968年 工業用内視鏡分野に参入</p>
---	-----------------------------------	---	--	---	-------------------------------------

売上高



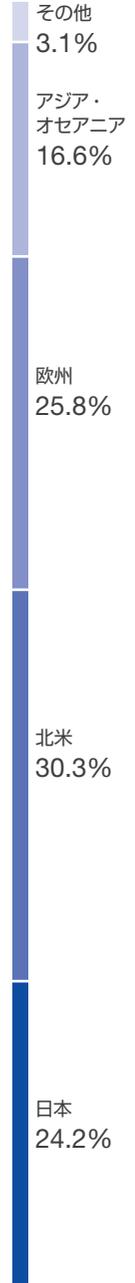
営業利益 (損失) / 営業利益率



売上高構成比



仕向地別売上高



1969年

世界初のマイクロカセットレコーダーを開発



1975年

医療用硬性内視鏡分野に参入



1996年

デジタルカメラ事業に参入



2008年

英国Gyrus Group PLC社を買収、医療事業における外科分野を強化



2009年

オリンパス初のミラーレス一眼を発売 (OLYMPUS PEN E-P1)